

## Injury Alert (傷害速報) 類似事例

## 首浮き輪による溺水 (No.32 首浮き輪による溺水の類似事例 5)

事 例	年齢：0歳9か月 性別：男児 体重：8kg 身長：66cm
傷害の種類	溺水
原因対象物	首浮き輪
臨床診断名	溺水、低酸素性脳症の疑い
医 療 費	944,960 円
発 生 状 況	発生年月日・時刻
	発生時の詳しい様子と経緯
	<p>2018年5月X日 午後9時10分頃</p> <p>これまで何度か本児との入浴時に首浮き輪を使用していたが、外れたことはなかった。当時、本児と母のみ在宅しており、2人で入浴していた。児に首浮き輪をつけ浴槽（水深不明）に浮かばせた状態で、母はコンロの火を消し忘れたことに気づき、そのまま浴室を離れた。台所でコンロの火を消した後、ゴミ箱を倒してしまったためにゴミを片付け、およそ5分後に母が浴室に戻ったところ、首浮き輪から外れた本児が浴槽に仰向けで沈んでいた。すぐに児を抱き上げたが、刺激しても反応がなく、チアノーゼを認めたため、母が自ら胸骨圧迫を開始した。その後本児は水を吐き出したが、依然反応がなく、玄関先で胸骨圧迫を続けながら救急車を待つ間、通行人に助けを求めた。通行人が人工呼吸を行ったところ、自発呼吸と体動が出現し、その後徐々に顔色が回復した。</p> <p>首浮き輪について、入手経路や使用頻度、空気の入具合等はいずれも不明だが、母が発見した際、上下の安全ベルトは外れていなかった。</p>

治療経過と予後	<p>覚知から8分後に救急隊が現着した際、児に自発呼吸は認められたもののSpO<sub>2</sub> 93% (大気下)で、JCS 3桁であった。医療機関到着時の評価では、SpO<sub>2</sub> 96% (酸素マスク 10L/分投与下)、GCS 13 (E4V3M6)であったが、処置中に呻吟、中枢性チアノーゼとともに意識レベルの低下 (E1V2M4) を認めた。呼吸不全と判断して気管挿管を行い、人工呼吸管理を開始した。</p> <p>PICU入室時には、呼吸循環状態を維持するため、高圧条件の陽圧換気と循環作動薬の投与を要した。胸部CT写真上、肺野のスリガラス影から肺水腫が疑われ、また誤嚥性肺炎の合併も懸念されたため、抗菌薬を投与した。蘇生後の中枢神経管理として脳平温療法、電解質管理を継続した。入院後の持続脳波検査ではけいれんを示唆する異常波は認めず、心電図モニターでも明らかな不整脈を認めなかった。以降、胸部X線写真で肺野の透過性は徐々に改善し、第5病日に抜管した。その後も呼吸状態は安定していたため、一般病棟へ転棟した。神経学的後遺症がないこと、経口摂取が問題ないこと、酸素需要がないことを確認し第7病日に退院となった。</p> <p>尚、本児の出生歴・発達発育には異常なく、突然死・けいれん・不整脈等の家族歴は認めなかった。また、病歴や身体所見から虐待は否定的と判断した。</p>
---------	--

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

## 首浮き輪使用中の浸水 (No.032 首浮き輪による溺水の類似事例 6)

事例	年齢：0歳3か月 性別：男児 体重：7kg 身長：未測定	
傷害の種類	浸水	
原因対象物	首浮き輪（首回り約29cm、首周り内径約9cm）	
臨床診断名	活気不良	
医療費	251,600円	
発生状況	発生年月・時刻	2020年7月X日（日） 午後1時30分
	周囲の人・状況	母と本児飲みが自宅の風呂場にいた。父は不在。同胞はなし。
	発生時の詳しい様子と経緯	上記発生時刻に、母と首浮き輪をつけた本児が浴槽内で入浴していた。首浮き輪は、両親が通信販売にて新規購入したものであった。使用方法は添付文書通りに、本児の首が座ったことを確認後（事例発生の一か月前）から使用しており、それまでは問題はなかった。本児は首浮き輪をつけた状態で、母が本児の後ろから抱っこしていたが、首浮き輪が首から外れて頭の方にずれてきたので、直そうとして数秒間かけて首浮き輪をはずしたところ、本児が咳き込んで少量の水を1回嘔吐した。母は、本児の首を前傾にしていた間に顔が浸水したのかもしれないと考えたが、すぐに本児は啼泣し、その後も眼色良好で通常通りに哺乳できたため、経過をみた。昼寝を1時間した後に嘔吐あり、活気不良も心配になったため、医療機関Aを受診した。活気不良あり月齢を考慮して、浸水後6時間後に、医療機関Bへ紹介となり、経過観察目的に入院となった。
治療経過と予後	入院時、追視あり、痛み刺激に啼泣あり、呼吸・循環状態も安定していた。血液検査で電解質の異常なく、レントゲンでは明らかな異常陰影は認めなかった。輸液、モニター管理とし、入院2日目には活気良好で、哺乳良好で輸液を終了した。その後も呼吸状態安定しており、入院4日目に退院となった。入院中に保健センターへ事故状況について報告し、特にリスクが高い家庭では無い事を確認した。	